



静岡県中小企業家同友会

2016

1

同友しずおか

VOL.446

題字：塩崎敬子氏 三島支部



私の逸品

私と富士山入選作

撮影：池田明孝氏

(静岡支部)

詳細はWEBで!

静岡同友会

検索

特集

県代表理事 年頭あいさつ 次代を担う青年経営者 展望を語る

会員訪問記

北田 記章氏 (株)北田木材・御殿場支部
入澤 清吉氏 (有)入澤保険サービス・伊東支部

シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ 後藤 百合子氏 こるどん(株)・静岡支部

その他
主な内容

支部だより、静岡大学連携講座、新入会員紹介、障がい者問題委員会クリスマスバザー、友達の輪、イントロin同友会

平成27年度
重点課題

- ①経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ②中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL：054-253-6130(代表) FAX：054-255-7620 <http://www.szdoyu.gr.jp>

代表理事 年頭あいさつ

県下に同友会を広めよう ～会勢1,200名に向かって～

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、ひとことご挨拶申し上げます。

今年の干支は申、サルはよくずる賢いといわれますが、賢くてもずる賢い経営者はいけません、いずれ退場を強いられます。

過当競争時代といわれる今日、何かと誠実さや信頼が損なわれ、不当な競争や利益追求が横行しがちな不信感があります。特に昨年は、誰もが知っている世界的に有名な企業が、しかも人命にかかわる自動車で不正が発覚しました。また日本では有名な企業で建造物のクイの問題が発覚しました。いずれも氷山の一角とも言われており、まことに残念で情けない限りです。

また頻発する異常なテロ、中国をはじめ新興国経済の後退、温暖化による気候変動や異常な自然災害をはじめとして世界中が不安と混乱の真っ只中にあります。特に世界中どこでも起こりうるテロは、形を変えた第三次世界大戦とさえ言われています。このような状況は、当然経済の世界に様々な影響を及ぼし、不測の事態としていつ私たちを襲ってくるかわかりません。

このように、私たち中小企業にとっても大変厳しく不安な時代ですが、世界経済の荒波に晒されながらも同友会運動をさらに発展させ、運動を通じて培った知恵と工夫で21世紀型企業として生き残っていかなければなりません。そのためには、“自社経営と同友会運動は不離一体”、“自社経営と同友会運動は車の両輪”と言われる本当の意味

を理解して自社の経営をより確かなものにしていくと同時に、素晴らしい同友会理念を多くの経営者に伝え広める運動にも一層力を入れていく必要があります。

さて、静岡同友会もようやく会勢1,000名が目前になりました。しかしながら、一度は1,030名余りの会勢までいきながら900名近くまで減少してしまったので、回復途上の1,000名にすぎません。この間の停滞は同友会理念を広めることの大切さを考えますと、大きな反省とともに責任を痛感せざるを得ません。地域の経済を担う中小企業家の私たちは、なんとしても同友会理念の理解をより深め、さらに同友会運動に共鳴する経営者を増やしていくことが大切です。同友会の会員を増やすことは、地域の経済をより発展させる原動力になるんだという自覚のもと、当面の目標である1,200名をめざし、さらなる増強に努めていこうではありませんか。

「企業は人なり」と言われますが、国も地域も人が主役です。人がいてはじめて地域も国も成り立ちます。“人間尊重経営”をくまなく県下に広め「良い会社・良い経営者の同友会」の私たちが静岡県経済を支える気概をもって頑張ってまいりましょう。

知久 正博氏（㈲知久太田会計事務所・代表理事）



祝1000名会員 達成記念祝賀会

仲間づくりで地域に貢献

記念講演：広浜 泰久氏

（株）ヒロハマ 会長

中小企業家同友会全国協議会幹事長

2016年3月30日（水）PM5:00～7:30 ホテルアソシア静岡 会費8,000円

人を生かす経営の実践と会員増強で、自社と地域の元気に貢献する静岡同友会。
次のステージめざして大きく飛躍を！



次代を担う青年経営者 展望を語る

静岡同友会では昨年、青年部の設立に向けて準備会が立ち上がりました。そのメンバーの中から10名の方に、青年部設立にける想いや考え、同友会活動の展望を語って頂きました。そこで、1月号・2月号の2ヶ月にわたって掲載致します。



新たな年の始まりに際して、昨年と同様に執筆できること、感謝を致します。

さて、静岡同友会でも青年部の設立に向け、昨年度より本格的に動き出しています。この準備会メンバーに私も選ばれ、少しでも力になればと考え、活動をはじめています。

実は今まで、同友会に青年部は必要ないと思っていました。と言うのも、私は他団体の青年部にも所属しているため、他の会と比べて年齢に制限がないことが同友会の特徴であり、また優れている点だ、と自分なりに解釈していたためでした。

しかし、昨年の9月に山梨県で行われた『第43回青年経営者全国交流会』に参加し、それまでの考えが大きく変わりました。参加する前は「全国大会に行くことだし、多くのことを学んでこよう！」とだけ決意して分科会に挑んだのですが、とにかく参加者の方々がパワフルで、熱い！熱い！いきなり私の意気込みは打ち負かされてしまいました。

私は同友会に入会してから、経営指針を創り事業定義を大きく変え、挑戦し続けていく中で、社員とも色々な葛藤が生じました。そして、いつしか自分自身が疲れ果て、やる気が無くなっていました。目標・計画は実行しなければ意味を成しません。実現しません。実行し続けるには経営者にパワーが無くてはならないのです。そして、疲れてしまった時に心の支えとなり、良き刺激を与えてくれる仲間がいること。熱くパワーがある経営者に出会うことで受ける刺激。これらも同友会の持つ大きな魅力だと改めて気付かされました。

寺田 卓正氏 (株)ニューウェーブ・志太支部



私が同友会青年部に期待すること、それは“ともに切磋琢磨する仲間たち”との交流です。正直申しますと、同友会における青年部設立という話を聞いた当初、私は否定的な意見

を持っていました。自分よりずっと年長の方たちと正に世代を超え、仲間として交流できることこそ同友会の素晴らしさであると考えていたからです。若手経営者との交流を求めるのなら他の経済団体の青年部活動で十分ではないか、わざわざ同友会でやることなのか？というのが率直な感想でした。しかし何故かその後も同友会青年部というものが頭の片隅に居座り続け、色々と悶々と考えていました。(私は決してモテる方ではありませんが) 例えるなら、それまで恋愛対象として見ていなかった女性から告白され、それ以降その子のが気になるってしょうがない、といった感じです。

その心のモヤモヤを晴らしてくれたのは、10月の障全交での、ある若手経営者との出会いでした。彼は二代目経営者で、親から引き継いだ事業を右肩上がりで成長させ、また社員とのコミュニケーションも積極的にとり理念の共有にも努めてきました。そんな彼が新規事業で大きく躓いたという話をしてくれました。深刻な状況も赤裸々に話してくれました。しかし、その失敗を真摯に反省する姿勢と、再び立ち上がろうという気概は私の胸を強く打ちました。そのとき素直に「俺も負けてられない、もっと頑張ろう」と思いました。

起業した人も、後継者であっても三十代、四十代というのは経営の最前線で正に今この瞬間も歯を食いしばって頑張っている世代だと思います。その世代が集まりともに切磋琢磨する、同友会青年部がこういった集まりになることを期待しています。

三田 宏一氏 (有)エムケイテクノ・三島支部



新年、明けましておめでとうございます。

皆様良い新年を迎えられたでしょうか？今年の目標など立てたでしょうか？私は「いつも楽しく」をモットーに行くと決めました。相変わらず経営環境は厳しい状態が続いておりますが、その中でも伸びている会

社の経営者は、いつもニコニコ明るく楽しそうにしております。そんな風に一年を過ごしたいと思います。

昨年、県青年部設立準備会が立ち上がりました。富士支部には青年経営者交流部会というものがあり、心が青年の方を中心に様々な活動を行っております。その中で、ある会員から「他支部の会員さんとも交流したい」といわれました。「全県フォーラム」「指針を創る会」パッと頭に浮かんだのがこの二つでした。正直、少ないと感じました。そんな時に準備会のお話をいただき、青年部が発足すれば県全体の交流の場も増え、皆様の辞書のページが確実に増えると思いました。同友会がさらに大きく盛り上がるきっかけにもなると思います。

同年代の仲間で楽しく磨きあい共に成長し、そして自社の発展に繋げる。青年部の設立に微力ながら前のめりで協力していきます。

経営状態が芳しくなかった我が社ですが、何とか持ち直してきました。ホッと一息という気もありますが、そこに甘んじる事無くさらに成長させたいと思います。自社の発展と同友会活動の両輪フル回転で、楽しく充実した一年にしたいと思います。

大竹 政彦氏（㈲富士清掃センター・富士支部）



昨年11月、県青年部設立の準備会にお声がかかった時「なぜ青年部が必要なのか?」「何をすれば良いのか?」と自問しました。

富士支部には10年程前から青年部がありましたが、当時は若い会員が少なく、どんな活動をすれば良いのか悩みました。2年前に再び私が部長になった時、新たな若い経営者たちが集まり、ここで初めて青年部会らしい活動ができてきました。

富士支部青年部のコンセプトは「会員同士の交流」です。同世代で集まり活動することで、悩みの解決の糸口を見つけたり、あいつも頑張っているから俺も頑張ろうという気持ちに繋がったりすれば、と思いました。しかしある時、青年部の活動を自社に落とし込めているのか、本当に変化できているのか、と行き詰まりました。

そんな時に県青年部設立の話がありました。ここで私は、青全交でも通用するような報告者を県の青年部から送り出すことを提案したいと思います。例会でもそうですが、報告者になるという事は、同友会活動を通じて良い経営者になったの

か?会社になったのか?良い経営環境にしたのか?を話さなければなりません。また、報告者が学んで結果を出すだけではなく、報告者を取り巻く仲間たちも、企画や準備を通じて交流し切磋琢磨することで、より良い報告ができると思います。こうして誰もが「俺が報告者になりたい」という意識を持てば、同世代の良きライバル、良き仲間作りにつながるでしょう。そして「あいつの報告が聞きたい」と皆が思うようになれば、自ずと支部例会や全県フォーラム、青全交の参加者も増え、活動もより活発化するのではないのでしょうか。

まさに同友会の基本が、県青年部で体得できると思います。県青年部が活発化すれば、自社も売上が上がるでしょう。県青年部が静岡同友会の熱いエンジンとなり、皆で良い経営者になりましょう。

高田 磨人氏（天ふじ・富士支部）



装いを通じてお客様をHAPPYにしたい。これが当店の理念です。

私が家業を継ぎたいと決めたのは中学生の頃でした。一流の洋服屋になる事を目標に

武者修行に出、14年間勤めた会社を辞めて地元に戻ってきました。自分の好きな洋服というジャンルでお客様のお役に立ち、喜んでもらえる事で地元のライフスタイルを豊かにしたいと考えています。また、失敗を恐れずチャレンジする背中を若い経営者に見せる事で「自分もチャレンジしたい」と前向きなリスクがとれる様な人が地元が増える様にしていきたいと思います。その為には、まずは自分自身が圧倒的に成功し、力をつけていく事が大切です。「考えるより行動」が私のモットーで、行動して失敗してきた積み重ねは経営者としての一言一句に必ず出てくると私は信じています。私自身、家業に入ってからこの4年間、事業承継での両親との対立で、自分の家族を失いかけた経験をしました。そんな時に絶大なる応援をしてくれたのが、この中小企業家同友会の皆様でした。地元を元気にするには全ての会社が黒字になる事が大切です。そうすれば自ずと地域は元気になるはずです。そんな流れを、まずはこの青年部の若いメンバーで、お互いに刺激し合いながら切磋琢磨していけたら、と考えています。

「決断より行動」を自分自身の行動指針とし、今年も新しい難易度の高い仕事にチャレンジしていきたいです。また、三島支部を楽しい支部にできるよう尽力したいと思います。

石川 英章氏（㈲石川商店・三島支部）

支部だより

静岡例会

人財育成こそが 会社の成長 ～自分が変わって 会社も変わる～

12月8日(火) ペガサート 参加53名



荒木 慎吾氏

今月は、荒木慎吾氏（㈱スマートブルー(株)）の報告です。冒頭、ソーラーシェアリングの現状と可能性について、事業内容と会社の歴史と共に端的に説明がありました。続いて、社員との関わりにつ

いて具体例を挙げて報告がありました。突然の社員からの退職の申し出の困惑、メンタル不調になった社員とその復職・退職についての葛藤、出産後復職してくれた社員ができたことの喜びについて。そのようなことを経験していくなかで、社員を変えようとするのではなく、自らが変わることではか会社の成長はない、と気づきます。その後、人財育成や共有に取り組み、社員に長く勤めてもらうためのしくみづくりに着手します。具体的には、年間行動計画の作成、勉強会、面談など様々なことを行っています。そのようなことを続けるうちに、成功体験の積み重ねが人を成長させることを荒木氏は知っていました。バズセッションでは、各グループで人財育成と共有について、自社の現状とこれからの課題、それを解決していくための方策について議論が活発に行われました。今回の例会では、課題を解決していくヒントを荒木さんの報告から得た方も多かったようです。

中村 佐和子氏（㈨フラワーサーカス・静岡支部）

伊東例会

祇園の過去・現在・未来 ～社長としての5年、これからの5年～

12月16日(水) ひぐらし会館 参加24名



守谷 匡司氏

守谷匡司氏（㈱祇園）が報告しました。代表取締役社長として5年が経過した守谷氏。現在に至るまでの苦悩や取り組んできた内容を、各年々の決算数字とともに報告してくれ、そのために質問等

もかなり多く出ました。また この例会はオブザーバー参加促進例会と位置付け呼び掛けていたこともあり、今までにないほどのオブザーバーの数で、出席メンバーの数を上回るほどでした。バズセッションのテーマは「これからの時代、中小企業はどうやって生き延びるか、どうやって成長する

か」で、幅広い意見が挙がりました。オブザーバー含め年齢の若い方も多く、活気があり密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。そしてグループ討論発表では、守谷氏の実践報告にあった「お客様の声はすぐ実行する、思ったらすぐ動く」や「経営をすることで数字が一番大事なことで、小さいことなど少しずつ積み重ねれば大きく数字は変わる」という内容をもとに、生き延びていくためには各自何をするか、と色々な発表をしてくださいました。オブザーバーの方々からも「ヒントや自社の気づきを得ることが出来た」などの声をいただき、とても実のある例会でした。

土屋 順史氏（㈨土屋装飾・伊東支部）

沼津例会

美容を通して出会った人を幸せにしたい 私は変わる！やるぞ！社長の決意と行動宣言

12月16日(水) VILLA EFFE 参加45名



東條 恵美氏

報告者は東條恵美氏（㈱モイスティヌ沼津）。「女性が綺麗になると社会が元気になる、家庭が明るくなる」とモイスティヌの仕事にたずさわって13年、お肌の改善に尽力しお客様と数々の感動を共にしてきました。前職の看護師

時代から自身もシミに悩まされていた頃、モイスティヌ基礎美容法に出会います。モイスティヌを試す中、自身の肌が綺麗になる姿を体験し、仲間の看護師にも評判が広がり、転職を決意します。

モイスティヌはシミ、しわ、たるみ、ニキビなどの美容トラブルを体の中から改善する手法で他社にないオンリーワンの商品です。起業して順調に業績を伸ばしスタッフも増え、自分では順調と思っていましたが、自分のためにスタッフがいるような自分本位のやり方に不満が出てスタッフが辞めてしまいます。そんな出来事に悩み疲れ、販売店基準も厳しくなり、会社経営にも厳しい現実が差し迫せまり、一時は廃業も考えました。それでも信頼し励まし続けてくれたお客様たちを思い、初心に帰りもう一度立て直しを図ります。お客様のためスタッフのために理想のリーダーはどうあるべきかを悩みながらも、新人スタッフの採用、売上げ目標の設定など曖昧に経営をしてきた自分と決別し、大好きなモイスティヌを多くのの人たちに伝え、スタッフと対話を重ねながら新しい一歩を踏み出す決意の報告でした。

露木 正樹氏（㈱スタート・沼津支部）

静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」



第9講 12月2日(水) 1+1=2 100-1=0 100-1=101

河原崎 哲哉氏 シンコーラミ工業(株)

河原崎氏自身が考え実践している人事採用や管理職教育などの事例を交え、労使見解について講じました。また、信頼は一つひとつの積み重ねだが、ちょっとしたことで無に帰してしまうということ、しかしトラブルへの迅速な応対によって信頼を強固にできるということを挙げ、信頼の大切さを述べました。最後に、「経験したことを多角的に捉え多くのものを得る力、そして、どんなことも糧にできる力を養ってほしい」など、学生へのメッセージも伝えました。

第10講 12月9日(水) オートバイを操る楽しさと自己責任

太田 誠氏 (有)M.C.S.KURITA

オートバイを通じて世界中の人々と交流してきた太田氏は、自身の体験談から「自分の好きなものを手段に、様々な文化や考え方を知ることができ、自分の見識を広げることができた」と語りました。また、オートバイの運転中は起こること全てが自己責任であり、予期せぬ外部環境の変化が起こった時は、他人のせいにならずに自ら判断して対応しなければならないと述べました。そして、このことは仕事や人生にも通じることだ、と学生に伝えました。



第11講 12月16日(水) 市場を創造し、小さくても輝く会社を目指して!

杉本 かづ行氏 (有)静岡木工

従来の神棚の販売で伸び悩んだ時、ある新聞記事がヒントとなって「見えていない市場があるのでは」と気付いたこと、そこから従来の神棚が設置できない人に提案できるものを考えたこと、また、海外へ移転し上手くいかなかった経験など、今に至るまでの経営や様々な経験を話しました。そして、中小企業には中小企業の良い点があり、この連携講座では、経営者の生のお話から一つでも多く学び取ってもらい、今後に活かしてほしいと学生に伝えました。



連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第56回

多くの場合、中小企業には人・モノ・金という経営資源が絶望的に不足しています。中小企業経営者は刻々と変化する環境の中で何とか自社を生き延びさせようと努力しますが、進むべき指針をもたない経営には限界があります。

二宮尊徳が「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」と言ったように、経営には社会に資する会社作りのための理念が不可欠であり、同時に利益を出して社員や地域に還元し、強固な経営基盤を確立して会社を存続させていくための計画を策定していく必要があります。

しかしやはり、多くの経営者は日々の忙しさを口実に、必要性はわかっても先延ばしにしているのが現状ではないでしょうか。

「経営指針を創る会」では、受講生とスタッフ一人ひとりが、まるで自分の会社のこのように受講生の会社の経営を真剣に考えます。この会で提供されるのは、様々な会社の経営者である参加者の知恵という「情報」と、同じ経営者としての「連帯」。求められるのは、自社をよい会社にしたいという受講生の「情熱」です。日々の経営という仕事は孤独ですが、この会に参加することによりきっと、経営者としての悩みや迷いを参加者と共有し、解決の糸口となるヒントを得ることができるはずです。

「自分は何のために経営をしているのか?」という疑問を感じたら、そのときこそ「経営指針を創る会」に入会すべき時であると思います。

経営指針を創る会第4期卒業生
後藤 百合子氏(こるごん(株)・静岡支部)

“木と人の架け橋”という理念を胸に…

(株)北田木材

専務取締役 北田 記章氏（御殿場支部）

事業内容：林業・素材生産業

創 業：1963年10月／設 立：2015年 3月

従業員数：正規 7 名

入 会：2014年 4月

所 在 地：駿東郡小山町竹之下1019-2

T E L：0550-76-1597

U R L：http://kitada-r.jp/

林業の業態変化と必要性

祖父の代から続く(株)北田木材は、北駿の山林で材木を切り出し販売している会社です。創業当時は国有林を主として出材していましたが、時代の変遷によって次第に民有林へシフトしていきました。その後、木材需要の低下や木材価格の低迷のため民有林の森林整備が減り、山林が荒れた時期もあったそうです。そして現在では、森林には水源のかん養や災害防止、CO₂吸収量の確保など公共財としての価値が認められるようになりました。森林整備事業に様々な補助金が支給されるようになり、同事業を通じて山を守っている、とのことでした。

人手不足に悩む林業業界

地球環境を守るという側面を持つ林業業界ですが、慢性的な人手不足に悩まされています。理由は熟練が必要なのに労働

環境が過酷なため。近年では急速に機械化・省力化が発展し、(株)北田木材でも積極的に機械を導入しているのですが、昔に比べるとだいぶ熟練度や労働の過酷さは減ったそうです。それでも異業種から採用したIターン社員などは「自然の中で働きたい」というイメージと、想像以上にワイルドな現場とのギャップで長続きしないと悩んでいました。



北田 記章氏（中央）

同友会で創った理念を携えて

北田氏は昨年、御殿場支部の経営理念部会で経営理念の成文化に取り組みました。ここには「木を活かす」の文字が踊ります。木と人の架け橋となり、地域を支える森林を守り育てる技術者を育成し、未来へ続く森林づくりに貢献する。そして多くの人に木の恩恵をお届けするといった理念が作成されました。今後は同友会活動を通じて経営理念の浸透に努力し、経営指針作成や社員共育などまだまだ多くの学びをしていきたいと語ってくれました。

取材・記事：大川 隆久氏（フエタ工業(有)・御殿場支部）

勝亦 英樹氏（勝亦製材駿河鉄骨(株)・御殿場支部）

取材：勝間田 誠氏（(株)文化堂・御殿場支部）

杉山 正英氏（(有)杉山正五商店・御殿場支部）

松岡 健二氏（(株)オサコー計画・御殿場支部）

支部の歴史を知る、伊東支部チャーターメンバー

(有)入澤保険サービス

代表取締役 入澤 清吉氏（伊東支部）

事業内容：保険代理業

設 立：1984年 2月

従業員数：正規 1 名 パート 1 名

入 会：1996年 4月

所 在 地：伊東市玖須美元和田727-750

T E L：0557-36-2168

「温かみ」が強みの保険代理店

1984年2月に独立開業した入澤保険サービスは、伊東市で自動車保険を中心に損害保険・生命保険を取り扱っています。商売で心がけていることとしては、例えば満期のお知らせの際もおお客様の顔を浮かべ、イメージしながらコメントを入れたり運転のアドバイスを付けたりと、オリジナリティを出すのに苦心していると語りました。この、他にはない温かみのある対応が同社の強みになっていると感じました。

地道な活動で人脈づくり

課題としては、業界では自分の10歳前後が主なターゲットと言われているが、後10歳の層が年々薄くなって

いるので、お客様の獲得は段々難しくなっている、とのことでした。今は、困っていることはないかと声がけや財産区での活動における人脈づくりなどを行っていると言え、まめに地道にいくしかないと言いました。



入澤氏

伊東支部の歴史に触れる

今回取材する中で、伊東支部チャーターメンバーでもある入澤氏から、支部の成り立ちも伺うことが出来ました。御殿場支部のメンバーが何度も何度も伊東に来てくれて、21名の仲間と共に設立したこと。少人数では充実したバズは難しいだろう、と三島支部から声をかけてくれたことがきっかけで4支部合同例会が出来たことなど、話を伺う中で私も先人の思いに触れることが出来ました。伊東支部は来年設立20周年を迎えます。入澤氏は、新しい人も増えて良い流れが出来ている、これからは若い人を支えていきたいと言いました。

取材・記事：西村 元秀氏（(有)にし村・伊東支部）

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数982名

※写真はe.doyu「ユーザ名簿」からご確認ください。

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
わたなべ ちおう 渡邊 千央	ちお坊 飲食店 (お好み焼き)	富士	大石 智一
い で 井出 敬一郎	アジェンテ静岡(有) 保険代理業 (損害保険、生命保険)	静岡	佐野 譲二
いま むら みつ ひろ 今村 光宏	(株)協立清水保険事務所 保険代理店 (自動車保険、火災保険、生命保険、医療保険)	静岡	太田 誠
もちづき れ な 望月 玲奈	ベル 飲食店 (スナック)	静岡	坂上 洋一
さ さ き ゆう 佐々木 優	ササキ工具(株) 機械工具商、建築金物・土木建築用機械販売店 (電動・エア工具、ワイヤー、スコップ、釘など現場用品全般)	静岡	齋藤 寧
たか はし なお み 高橋 直巳	(株)Sun&Sun総合保険事務所 生損保代理店業 (生命保険、損害保険)	志太	寺島 雅之
き むら けんいち 木村 健一	(株)木村スチロール 製造業 (硬質発泡スチロール成型・加工)	榛原	三輪 雅則
えんどう みつる 遠藤 在	Sign サービス業 (グラフィックデザイン (ロゴデザイン、プロダクトデザイン、Webデザインなど))	榛原	三輪 雅則



県障がい者問題委員会

皆さんのご厚意が集まったクリスマスバザー



12月5日(土)に青葉公園にて、静岡市ボランティア団体連絡協議会主催の「第16回いのちポカポカ街かどクリスマス2015」が開催され、障がい者委員会で出店をしました。会員企業25社から商材を提供して頂き、計131,580円の売上金が集まりました。こちらは全額、静岡県手をつなぐ育成会と静岡市社会福祉協議会へ寄付させて頂く予定です。この寄付金は、それぞれの団体の各種事業推進費や静岡県・市内福祉団体活動の助成金等に使われます。

今回も多くの皆様のご協力頂きましたことを、この場をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございました。このバザーは2003年に始まり、今回で13回目となります。開始当初は「会内外へのPR」が主な目的だったと聞いていますが、私はこのバザーは一つの障がい者理解のあり方であり、社会貢献の場であると思っています。一社ではなかなかできないボランティア活動や社会貢献も、バザーに商材を提供することでその活動に参加していることになると思います。これからも続けていきますので、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

池原 智彦氏 (有池原商会・障がい者問題委員長)

友達の輪 第22回

三田宏一さん(有エムケイテクノ、三島支部長)からご指名を頂きました、榛原支部の田中美次(みつぐ)です。三田さんとは「第8期経営指針を創る会」にて共に受講し、2回の一泊研修の際は、同室でお互い刺激し合った仲間です。卒業後は、8期の仲間達との飲み会や楽しい落語、物まねなど聞かせていただいたり、事業に対する思いを聞かせていただいたりしています。素敵な笑顔で他人を常に喜ばせる人だな、と感じ、会うと元気を頂いているのは私の方なんだと思いますよ。

ところで、我が社「田中肥料(株)」を取り巻く農業関係の環境は年を追って悪化しておりますが、新たな農業の担い手である農業生産法人に信頼されるための努力を重ねています。三田さんの支部長としての活躍からも、多くの刺激をいただいております。

さて、次にご指名させていただくのは、もう一方の8期研修同室だった兵藤弘昭さん(静岡ファイナンシャルプランニング(株)・沼津支部)です。とても見識が広く、ためになる有益なお話を聞かせて頂いております。おちゃめな面もあり、愛すべきキャラクターの持ち主です。それでは兵藤さん、宜しくお願いします。

田中 美次氏 (田中肥料(株)・榛原支部)



同友会イントロセミナー IN 同友会

12月14日(月) 参加18名

オブザーバー6名を迎え開催されたイントロセミナーは、同友会の理念や歴史について河合浩史氏(県副代表理事)が説明しました。何をめざして会活動があるのか、どんな学びがあり、どのように生かしてきたか、自身の経験をもとに報告されました。「同友会と私」は、太田誠氏(有M.C.S.KURITA・静岡支部)が、夢を実現し挑み続けたバイクレースのことや経営指針を成文化して後の自社経営について語りました。報告に感動した5名が入会を表明し、大きな成果に結びつきました。



太田 誠氏

2015年12月に実施した「静岡県中小企業家同友会 2015下期・景気動向調査(第33回)」にご協力いただき、ありがとうございました。380件のご回答をいただき、政策委員会にて分析しました。その速報集計を同封しましたので、ご覧ください。詳細な分析結果は「同友会ずおか 2月号(2月10日発送)」に同封します。

同友会

三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。